



繁華街の狭小地に建設されるため、夜間工事で資材搬入などが行われる

仙台駅西口の繁華街に、木造2×4の4階建てテナントビルが建築中だ。耐火認定の一般的な2×4建築で、狭小地の土地有効活用を検討していた地域の有力な地主に対し元請け業者と木材関連業者がチームとなって提案し、採用された。今回の建築主体となるサンケン住宅(仙台市)の代表取締役社長は「仙台市の繁華街には狭小地がたくさんある。今回の物件でそういった場所にもテナントビルができることを見てもいい、今後の実績につなげていければ」と話す。

同テナントビルは延べ床面積46坪。SPFや針葉樹構造用合板などを活用した一般的な2×4建築で、国土交通大臣告示仕様の耐火認定で建築している。木材使用量は約65立方

事業を推進しており、昨年7月にはSDGs未来都市にも選定されている。そのなかで同市内には狭小地が多くあり、こういった土地での建築を得意とする木造を提案するため、

経緯について、大友社長は「繁華街の狭小地ではなかなか採算の取れる事業が見付からず、テナントビルが検討された。当初はS造が予定されていたが、狭小地では大型機械も

仙台繁華街に木造テナントビル

業界連携で提案、狭小地に2×4で

仙台駅西口の駅前繁華街に立地することから夜間にクレーンなどによる資材搬入や工事が進められ、6月の完成・引き渡しを予定する。宝くじ売り場などが入る予定だ。仙台市は都市再開発

ポラテック東北(仙台市)、ウイング東北支店(同)、札幌ベニヤ商会東北営業所(同)は狭小地木造チームを組んで活動を始めていた。ここからサンケン住宅との連携、物件実現につながった。

入らず難しいため、木造で建築することにした。2×4木造4階建てテナントビルは東北で初めての事例となることから、確認申請などには手間取ったが、木工事に入ってからは基礎を含めて早く順調



ビルの内部。工法は一般的な2×4だ

での木造需要拡大に向けて最大限生かしていきたい。例えば、今回の木材使用量は様々な要因から

に進んでいる」と話す。木工事には、先進的な建築に積極的に対応する大工集団のアーリビルド(仙台市、沼倉孝介代表)が参加。今回の工事でも様々な技術的な課題や工夫などを集約し、蓄積している。サンケン住宅の持つビル建築ノウハウの木造への応用も含めて、事後に手順、施工などについて整理してまとめ、都市部狭小地

多めとなったが、よりコストを抑えた建築は可能と見ている。現場の動画配信なども予定する。「施工関連の皆さんの協力により様々なノウハウが蓄積できると思っており、本当に感謝している。これを次に生かし、都市部狭小地などでも木造建築をどんどん増やしていきたい」(橋本幸ウイング取締役東北支店長)。